



本園教職員の自己評価結果（1月13日実施）をお知らせします。幼稚園では、小中学校と同じように教育の努力目標を立てて保育実践し、反省と改善をして以降の実践につなげています。

令和4年度 本園教育の重点努力事項（自己評価）		評価 4できた 3大体できた 2あまりできなかった 1できなかった			
	重点努力事項	具体的実践例	評価	成果と課題	
学びの基礎づくり	1	幼児期にふさわしい遊びを通じた環境づくりの工夫	2.8	<p>○3歳児の保育については、初めての集団生活がスムーズに行えるように、基本的な生活習慣の確立に向けては、支援員や保護者と連携し、個々に応じて関わるようにすることができた。各年齢に応じて環境や関わりを工夫できた。</p> <p>○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識した計画や評価、ドキュメンテーション作成と掲示をすることで、幼児の育ちを捉え、幼児理解ができ、さらなる育ちを支える環境づくりと他のクラスの育ち共有ができた。</p> <p>○幼児との対話を大切に、主体性をはぐくむ関わりを意識できた。</p> <p>○園内推進事業を活用し、研究保育を実施し、参観や協議で教職員の資質向上に努めることができた。</p> <p>○一人一人の幼児の姿や実態を共有し、話し合うことで、それぞれに合った教育的配慮を探ることができている。</p>	
	2	幼児の主体的な活動を引き出す環境の工夫	3.3		
	3	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の職員間の共有と体制づくり	3		
	4	考えや感じたことなどの自分の思いを自分なりの言葉で表現する力の育成	3.3		
	5	教職員の資質・指導力の向上を図る園内研修の充実及び園内研修推進事業の活用	2.8		
豊かな心の育成	6	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	3.3	<p>○個々や年齢、時期にあった関わり方や援助、声のかけ方等を工夫し実践することで、自分でやろうとする態度や友達と力を合わせる姿勢、気持ちを調整する力など発達段階に応じた成長がみられた。</p> <p>○やろうとする姿を励まし、できたことをほめることに努め、自尊感情を育成した。</p> <p>○園内外活動は、必要な自然体験ができるように感染症予防の観点から考慮しながら、教職員間で話し合い計画実践した。</p> <p>○絵本を見たくなくなるように絵本の部屋の整理に努めた。</p> <p>●職員体制がぎりぎり、日程によっては限られた教職員の参加になりがちなことがあった。</p>	
	7	人権感覚の基礎となる自尊感情の育成	2.8		
	8	主体的な活動と教師の援助の充実	3.3		
	9	友達によさに気づき、認め合う体験の工夫と援助きまりの必要性等に気づき、自分の気持ちを調整する力の育成	3.5		
	10	自分の力でやろうとしたり、最後までやり遂げようとする態度の育成	3		
	11	園内及び園外活動を通して自然の中で遊び、季節や命の大切さを感じさせる工夫 絵本や紙芝居等毎日の読み聞かせや興味を高める絵本コーナー等の工夫	2.5		
健やかな体の育成	12	同和問題をはじめとする様々な人権問題についての基本的認識を深め、実践的指導力を高める研修の充実（人権同和教育の推進）	3	<p>○時期に応じ、経験したい遊びは計画的にできた。</p> <p>○栽培物は、時季を逃さないように取り組み、幼児は栽培、収穫、試食などの直接体験ができた。</p> <p>○アレルギー対応食が確実に実施できるように工夫した。</p> <p>○安全面では、場面場面で必要な時に必要な声掛けを積み重ねたことで、気を付けることができた。降園後の消毒等も丁寧に行い、感染症対策に努め、クラスターが発生することはなかった。</p> <p>○マニュアルや計画は年度初めや必要な時に見直し作成した。</p> <p>●クラス単位の活動が多くなりがちなる時もあり、太田郷っ子タイムを引き続き効果的に活用していくとよい。</p>	
	13	充実感をもって、心と体の諸機能を十分に働かせることのできる環境の工夫	3.8		
	14	食育を通じた望ましい食習慣の形成	3		
	15	生活の中で安全な行動ができるような環境の配慮及び指導の工夫	3		
	16	防災教育の充実と安全衛生管理の徹底	3		
チームとして・地域とともにある幼稚園づくりの推進	17	「危機管理マニュアル」「園安全計画」の見直しと改善	2	<p>○国版CS移行について現協議会委員と共有して進めていたが、市幼稚園在り方検討会方針計画 決定後に移行することとなった。</p> <p>○日頃の取組により、徴収金管理も含め不祥事等は起きていない。</p> <p>○家庭教育への情報提供は行っているため、引き続き啓発をしていく。</p> <p>●職員同士は顔を合わせる機会は増え、小中学校の施設を借りることはできたが、子供同士の交流機会をもつことが難しかった。Wi-Fi環境が整えば、オンラインでの交流もできるのではないか。</p>	
	18	令和5年度国版CS移行への取組や準備	3.5		
	19	「不祥事根絶を考える日」の取組の充実及び徴収金管理マニュアルの徹底	3		
	20	家庭学習や子育てに関する学習会や情報の提供、相談体制の充実	3		
基盤	1	小学校以降の教育円滑な接続を図るための幼・保等、小、中連携カリキュラムの活用と交流の工夫	3.3	<p>○年長児は自分から元気に気持ちよくあいさつができ、月1回のあいさつ運動はよい刺激になり他のクラスのよい手本となった。</p> <p>○定期的に確認をしながら、よい習慣が身につけてきた。</p> <p>○テープを貼り、分かりやすくしたことで、靴のかかとをそろえる習慣がついてきた。</p> <p>●3歳児はようやく人の話を聞くことに興味をもつことができてきたため、今後、より集中して聴けるように関わっていく必要がある。</p> <p>●靴をそろえることは、園ではできているが家庭では習慣づいていない状況がある。引き続き意識させたい。</p>	
	2	「やつしるスピリッツ」の共通理解と共通実践	2.8		
	3	話し人の顔を見てしっかり話を聴く	3		